

平成26年度 事業報告

はじめに

日本の経済情勢は、政府の経済政策により、円安・株高が進み、輸出産業を中心に業績を回復する大企業が見受けられ、雇用・所得環境においても失業率の低下や賃上げの実施など、改善傾向は見られますが、消費増税に伴う駆け込み需要の反動により、消費の動きは鈍く、地方や中小企業では景気回復を実感するには至っておりません。

健診・検査を取り巻く環境としましては、平成26年6月に労働安全衛生関連法の改正により、特殊健診を必要とする特定化学物質の追加や、50人以上の事業場でのストレスチェック実施の義務付けが平成27年12月から施行されることとなりました。また、特定健康診査、特定保健指導及びがん検診については、受診率は増加傾向にあるものの、依然として低い水準であるため、積極的な受診勧奨等を行い、受診率の更なる向上を図る必要があります。一方、従業員の健康管理を積極的に進めることにより業績向上に役立つという考え方の「健康経営」の認知度が高まりを見せており、この取り組みに対し、支援を行うことが今後重要となってきます。

このような状況の下、平成26年度においては、御影健診センターの改修工事を行い、検査部門の機能を整備するとともに、旧2・3号館については解体撤去し、当該借地の返還を行いました。また、第三期目を迎えた健康ライフプラザ(神戸市健康づくりセンター)の指定管理については、当協会・オージースポーツ・日立ビルシステムの三法人による共同事業体として管理運営にあたりました。さらに、要介護予防を目的とした「いきいきライフドック」を新たに健康ライフプラザで開始し、受診者の軽度認知障害や運動機能障害などの要介護予防措置に努めました。

経営面においては、灘健診センター及び改修した御影健診センターにかかる減価償却費などにより、平成26年度は経常増減の部で約2億2千万円の赤字を計上することとなりました。平成27年度以降も高額な減価償却費を継続して計上していくことなどから、厳しい状況が続くと見込まれますが、新規顧客の開拓、各事業の見直しなどを図り、できるだけ早期に経営基盤を安定化させるように、役職員一丸となって取り組んでまいります。

そして、市民・県民の健康保持増進のために、健診・検査の精度向上及び予防医学事業の進展に努め、広く社会に貢献するという公益財団法人としての使命を果たすため、更なる努力を続けてまいります。

事業の概要

公益目的事業

当協会は、行政諸機関や地域医療機関及び保健機関との密接な協力関係のもと、各種健診・検査、健康支援及び健康教育等を行い、県民・市民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的とし、次の1から4の公益目的事業を実施した。

1. 疾病予防に関する知識の普及・啓発事業

(1) 広報・情報提供

①機関紙「あすの健康」の発行

予防医学の知識の普及・啓発や健康づくりに関連する情報を広く提供することを目的に機関誌「あすの健康」を発行し、地方公共団体、関連団体、事業所及び各種団体等を通じ県民に健康情報等を発信した。

②ホームページでの情報提供事業

臨床研究の告知、寄付についてなど、情報公開のページを新たに追加した。トップページに電話での問い合わせのバナーを配置するなど、前年度全面リニューアルをおこなった後も修正を加えながら、より利用しやすいものに改善している。

(2) 講演会開催、講師派遣、普及・啓発活動

予防医学の知識の普及・啓発を目的として、昭和46年に県民・市民等を対象に「予防医学講演会」としてスタートした活動も現在、「予防医学フォーラム」「いきいきライフセミナー」「がんをよく知るための講座」「働く人の健康づくり研修会」を定期的に開催している。今年度は、次に示すテーマで開催した。

また、地方公共団体、健康保険組合、地域団体等からの要請を受けて講演会・講座への講師派遣を行った。

①講演会開催

(ア) 予防医学フォーラム

昭和61年より、予防医学の普及・啓発を目的として、病気の話をはじめ、健康づくりや教養等様々なテーマを取り上げ、神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 平成26年11月8日(土)

◇場所 神戸新聞松方ホール

◇講演 テーマ 「認知症は予防できるかーもの忘れ、軽度認知症のとらえ方」

講師 国立長寿医療研究センター もの忘れセンター長 櫻井 孝 氏

◇対談 櫻井 孝 氏

聞き手 元神戸新聞論説委員 古山 桂子 氏

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 640名

(イ) いきいきライフセミナー

平成6年より、毎年9月のがん征圧月間にちなみ“がん”や“健康”等をテーマに神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 平成26年9月13日(土)

◇場 所 神戸新聞松方ホール

◇講 演 テーマ 「睡眠の話ーすこやかに生きるために」

講 師 大分大学医学部公衆衛生・疫学講座 教授 兼板 佳孝 氏

◇対 談 兼板 佳孝 氏

聞き手 元神戸新聞論説委員 古山 桂子 氏

◇健康表現体操 指 導 健康運動指導士 他

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 605名

(ウ) がんをよく知るための講座

平成10年度より、日本人の死亡原因のトップである“がん”について、最新の治療方法等、専門家から正しく新しい知識を学ぶことをテーマに、神戸新聞社との共催で開催している。今年度は以下の2回を開催した。

(i) ◇テ ー マ 「皮膚がんの話」

◇開催日 平成26年8月21日(木)

◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室

◇講 師 神戸大学大学院医学研究科 内科系講座皮膚科学分野 教授 錦織 千佳子 氏

◇参加者数 77名

(ii) ◇テ ー マ 「肺がんの予防と早期発見とは？」

◇開催日 平成27年2月19日(木)

◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室

◇講 師 神戸市立医療センター 中央市民病院 呼吸器内科部長 富井 啓介 氏

◇参加者数 88名

(エ) 働く人の健康管理研修会

平成8年度より、事業所等における従業員の健康管理をサポートするために、独立行政法人労働者健康福祉兵庫産業保健総合支援センターの後援を得て、年2回開催している。今年度の開催内容は以下のとお

り。

(i) ◇テ ー マ 「働く人のアンチエイジング 究極の脳卒中予防法とは？」

◇開 催 日 平成26年 9月30日(火)

◇場 所 健診センター 5階多目的室

◇講 師 兵庫医科大学 脳神経外科学講座 主任教授 吉村 紳一 氏

◇参加者数 81名

(ii) ◇テ ー マ 「働く人のアンチエイジング 糖尿病と認知症（アルツハイマー病）ー予防への新たなアプローチ」

◇開 催 日 平成27年 1月23日(金)

◇場 所 健診センター 5階多目的室

◇講 師 大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学講座 准教授 里 直行 氏

◇参加者数 55名

②講師派遣

健康保険組合等が開催する講演会、健康づくり教室等へ次のとおり医師・保健師などを派遣した。

○企業・健康保険組合等が開催する講演会へ医師派遣：3回

テーマ「健診結果の読み方」「頭痛・肩こり」「いきいきライフのすすめ～気になりませんか、老後の自分」

③普及・啓発活動

結核及び乳がんに関する知識の普及啓発、それらの早期発見を目的に、地方公共団体や各種団体が主催するキャンペーン事業に協力し、胸部X線検診車による結核検診および乳房検診車による乳がん検診を行った。

○こうべ福祉・健康フェア：結核検診受診者101名

○母の日乳がん検診街頭キャンペーン：乳がん検診受診者29名

○ピンクリボンフェスティバル神戸大会：乳がん検診受診者80名

○結核ハイリスク者に対する早期発見および蔓延防止のための啓発活動

結核検診受診者：1,533名

○「“けんしん”で早期発見・早期治療」：大腸がんクイズラリー参加者198名

また、4月より要介護予防事業の一環として、ラジオ関西、神戸新聞社と連携し、認知症の予防啓発や高齢者の健康な生活の提案を目的に、「頭にいいラジオ」の放送を開始した。内容は、日替わりで脳トレーニング、食生活、回想、コミュニケーション、運動などを放送し、その内容は神戸新聞電子版でも聴くことができる。

2. 疾病予防のための健康診断及び検査事業

(1) 地域保健

①特定健康診査及びがん検診

地方公共団体からの委託を受け、市民健診（国保特定健康診査・後期高齢者健診・若年者健診）を拠点会場において集団健診で実施した。休日健診実施や胃がん・乳がん検診同日実施等受診者サービスの向上を図り受診率の向上に努めた結果、受診者総数は前年度より増加し約57,000人となった。

また、胃がん・乳がん検診は、受診しやすい環境づくりを推進して受診率の向上に努め、受診者数は、胃がん検診が約22,200人、乳がん検診が約8,800人であった。

大腸がん検診は、通年での市民健診との同時実施に加え、冬季期間（11月～3月）の郵送方式で実施した。受診機会の拡大と広報活動の充実による受診率の向上に努め、また、一部自治体の新規受託もあり、受診者数は前年度より約5,000人増の約95,000人となった。コール・リコール（個別勧奨）事業の効果も受診者数増加に影響していることから、今後も積極的に取り組み、受診率を向上させることによるがんの早期発見に努めていく。

②結核検診

地方公共団体より委託を受け、拠点会場において集団検診で実施した。また、神戸市からの委託を受け、症状があっても医療機関を受診しないハイリスク者に対する休日や夜間検診及び住所不定者や小規模事業従事者も含めた多様な生活形態への配慮と利便に工夫した検診を実施した。受診者数は前年度より15単位減の年間215単位稼働し、約200人減の約2,600人となった。

今後もさらに受診しやすい環境を整備する等、受診機会の確保に努め、県民・市民の結核予防に寄与していく。

③エイズ（HIV/AIDS）検診

神戸市からの委託を受け、神戸市の中心街である三宮地区において、土曜日や夜間に定期実施を行った。土曜日の即日検査の受診者数は、前年度とほぼ同じ527人であった。また、夜間検診の受診者数は、前年度より若干減り1,906人となった。

夜間検診で同時に実施できる性感染症検査では、例年通り梅毒、クラミジア検査を実施した。なお、クラミジア検査については、血液検査よりの確な診断が可能である尿による検査を平成25年度と同様に実施した。今後も受診者へのプライバシーを配慮し、受診しやすい環境を整えていく。

(2) 学校保健

県下の各市町教育委員会及び大学・私立学校法人からの委託を受け、地区医師会の協力を得て、学校保健安全法に基づく腎臓・糖尿病検診、寄生虫検査、心臓検診、脊柱検診及び結核検診を延べ約850,000人に対して実施した。検体検査分野を始めとして、地方公共団体による入札制度により厳しい状況であったが、児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与するために健診検査の質を低下させることなく、ニ

ーズに応えた日程調整を行う等円滑に実施するためのきめ細やかな取り組みを行った。

また、少子化により児童・生徒数は減少傾向にあるが、今後も積極的な検診実施に取り組むとともに、専門医との連携による検診精度の維持・管理に努め、県下の児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与していく。

(3) 産業保健

地方公共団体や一般企業等の事業所で働く人延べ約180,000人を対象に、労働安全衛生法に基づく定期健康診断、特殊健康診断及び行政指導によるVDT健診等、職業性疾病予防と早期発見を目的として健診・検査を実施した。

地方公共団体等における入札制度や見積り合せにより厳しい状況が続いているが、当協会が所有する検診車の機動力を生かした出張健診による迅速で柔軟な対応や精度等が評価されたことにより、新規受託や既存契約先との継続受託にすることができ、継続的な健康情報の提供による事業所の労働衛生の向上及び働く人の健康づくりに貢献した。

労働安全衛生法の改正により、平成27年12月から施行されるストレスチェック制度については、システムの構築・実施体制の整備を進め、「こころ」を含めた健康の管理・増進に取り組み、働く人の健康づくりを進めていく。

(4) 総合健診

県民・市民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的に、阪神地区の拠点として、神戸市灘区の健診センター、また、神戸市西部及び東播地域の拠点として、神戸市兵庫区の健康ライフプラザにおいて、法定の健康診断に様々な検査項目を追加した総合健診を実施した。

県民・市民の様々なニーズに応えられるよう、総合健診のコース選択の幅を広げるため「半日ドック」や「1泊ドック」及びMR装置を利用した「脳ドック」、また、従来からの「女性特有のがん検診」として「子宮頸がん検診」、「マンモグラフィ検査」や「乳房超音波検査」及び「CT検査」や「頭部MR検査」等、希望に応じて幅広く選択できる複数のオプション検査も含め、内容の充実を図った。健診センターでは、呼吸器・循環器に重点的をおいた「肺ドック」や「循環器ドック」及び健診当日に結果説明を実施する「1日ドック」を、健康ライフプラザでは、高齢者の要介護予防を目的とした「いきいきライフドック」を新たに実施した。

また、多忙な勤労者や事業主、日頃受診機会の少ない家庭の主婦等に対して、個々の都合に合わせて柔軟な対応ができるように、休日健診等の実施体制を整え、より受診しやすい環境に整備するとともに、健診結果において精密な検査や治療が必要と認められる受診者に対して、主治医や専門医療機関との病診連携を取りながら受診勧奨を行う等、アフターフォローの充実に努めた。

今後も、施設設備の充実した健診センターと最新のMR装置を備えた健康ライフプラザを積極的に広報活動し、受診者数の増加に繋げ、県民・市民の健康増進に寄与できるよう努めていく。

(5) 保健指導

①各種健康診断結果等を踏まえた地域・職域における保健指導

地方公共団体の市民健診会場や事業所に出張して健診結果等をふまえた保健指導を実施し、健診の継続受診や要医療者への受診勧奨を行った。また、市民健診会場においてがん検診の未受診者への受診勧奨を行い、早期発見・早期治療のための検診受診の動機づけを行った。

また、事業所へ出張や当協会の施設にて、若年者向けメタボリックシンドローム予防研修会や腰痛予防体操、中食学習会（コンビニ弁当の選び方等）、講話やゲーム、体操等を取り入れた研修会を提案し、健康で働き続けるための支援を行った。

②労働安全衛生法に基づく労働者の健康管理、作業管理等における保健指導

平成26年3月に11年ぶりの改正となった「健康づくりのための睡眠指針2014」を踏まえて、睡眠に問題を抱えた人は生活習慣病やうつ病のリスクが高まることや、熟眠のコツについての情報を盛り込んだ研修会を行い、作業効率改善や安全な労働の確保に必要な自己健康管理について学ぶ機会を提供した。

③高齢者医療の確保に関する法律に基づく特定保健指導

国民健康保険をはじめ、全国健康保険協会並びに各種健康保険組合等の被保険者及び被扶養者に対し、主に会場に出張して特定保健指導を実施した。初回支援を個別または集団で実施し、以後6ヶ月間にわたり、プログラムにそって階層化で分類された動機付け支援・積極的支援を面接・電話・レター等で指導を実施した。

④地域・職域におけるメンタルヘルス事業のための保健指導

地域・職域からの依頼に基づき、ストレスチェック（職業性ストレス簡易調査票）等を使用しながら、結果にもとづいて個別または集団で面接指導を行った。集団での指導では、主に一般職員向けにコミュニケーションスキルの重要性を体験する内容のセルフケアに関する研修会を行った。

また、メンタルヘルス対策の充実・強化を目的として労働安全衛生法の一部改正が行われたことに伴い、実施体制の整備等を早急に図っていく。

⑤H I V等の感染症に関する知識啓発、検査及び指導

夜間H I V抗体・性感染症検診及び即日H I V抗体・H B s 抗原検診等において、検査前の事前説明と検査結果説明を通じて保健指導を行い、予防に関する知識啓発を行った。

⑥電話等による各種相談

当協会での受診結果について、電話等で各種の健康相談に応じ、夏季の脱水や感染症等時事的な健康問題等についても可能な範囲で健康相談に応じていくことで、広く県民の安心に寄与できるように努めた。

(6) 細胞診

喀痰細胞診の検査数は、神戸市肺がん検診では約8,000件、当協会内部検査分では約1,000件、合計で約9,000件であった。

子宮がん細胞診の検査数について、神戸市子宮頸がん検診は、約38,000件であり、前年度より約5,900件増加した。そのうち、通常検診（20歳以上・2年毎）は約23,000件で、前年度より3,000件の増加であった。また、平成21～24年度の未受診者及び今年度に20歳を向かえた市民を対象に実施された「無料クーポン券」による検診は約15,000件で、前年度より3,000件の増加であった。

医療機関からの保険診療での受託分は、従来法（直接塗抹法）、LBC法（液状化検体細胞診）ともに約2,000件であった。協会施設内検診分は約7,800件、HPV-DNA検査は36件であった。

厚生労働省の通達により、平成27年度から子宮頸がん検診の報告様式は、従来のクラス分類を廃止し、ベセスダシステムに統一される。今後は、不適正症例数を減少させ、検診精度を高めることが課題となり、LBC法の導入を含め、関係機関との協力体制のもと適切に対応していく。

(7) 腸内細菌検査

今年度の実施件数は約88,000件と前年度より約13,000件の減少となり、平成21年度以降継続して減少傾向にある。件数減少に歯止めをかけるべく、契約先のニーズに対応した付加価値（食品検査・衛生調査・精度重視）の充実を図るとともに、腸内細菌検査法の主流になると見込まれる遺伝子検査（マルチPCR）の導入について引続き検討を行い、実施件数の増加に繋げていく。

また、神戸市保健所からの腸内細菌・喀痰緊急検査については、今年度も引続き検査を受託した。食中毒等由来の感染症対策に基づいた腸内細菌（赤痢、パラチフス、腸管出血性大腸菌O157）及び喀痰検査を実施した。今後も検査精度の維持向上に努め、保健行政に貢献していく。

(8) 作業環境測定

総合労働安全衛生機関として、「働く人の健康維持増進や快適な職場環境の保持・創出」を目的に健診事業と併せて、有害物質取扱い事業場を中心に屋内並びに屋外作業場あるいは居室を対象として、作業環境測定を実施した。

今年度は、有害物質の新たな法規制拡大や監視強化、事業者の健康意識の高まりを反映して、1,160箇所での測定を実施した。特に、昨今の胆管がん問題等産業活動に起因する健康被害の注目により、印刷、洗浄、塗装業務等に使用される有機溶剤並びに特別有機溶剤等を対象とする測定が116箇所であり、前年度に比べて増加した。

今後も、特殊健康診断と一体となり、総合判断に基づく事業場の労働衛生管理の改善を支援していく。

(9) 食品検査等

食品営業者の保存試験や食中毒予防に関連した自主衛生管理に基づく検査であり、今年度の実施件数は、

性格テストを取り入れた試み（中間報告）－. 予防医学ジャーナル 477 : 71-75, 2014

- 高橋かおる 健診センター健診運営部生化学検査科：中性脂肪やコレステロールを検査する際の注意点は？. メディカ出版 vol. 7 no. 11 : 27-29, 2014
- 伊藤光男 品質管理センター精度管理室：オフフレーバーの分析法（1）－データベースを用いた方法－. Foods & Food Ingredients journal of Japan vol. 219:14-24, 2014
- 池窪勝治 健康ライフプラザ医局：健診における甲状腺結節の早期診断とメディカルマネージメント－超音波検査を中心に－. 総合健診 vol. 42 : 261-272, 2015

②学会報告等

- 山浦泰子 健診センター医局：無症状の大動脈弁逆流とメタボリックシンドローム－経胸壁心エコー図法による大動脈根径計測値の検討－, 第 25 回日本心エコー図学会学術集会, 金沢, 2014. 4. 17-19
- 山浦泰子 健診センター医局：健康診断や人間ドックにおける心エコー図法のあり方, 日本超音波医学会第 87 回学術集会, 横浜, 2014. 5. 9-11
- 高橋かおる 健診センター健診運営部生化学検査科：安価で精度の高い HbA1c の精度管理 自家作製プール血球試料と市販品との比較, 第 57 回日本糖尿病学会, 大阪, 2014. 5. 22-24
- 島屋真希 健診センター医局：職域大腸がん検診における医療保険の影響, 第 52 回日本消化器がん検診学会大会, 神戸, 2014. 10. 23-26
- 宮本祐見子 健診センター健診運営部看護科：チェックリストからみた採血業務の現状分析, 第 49 回予防医学技術研究会議, 沖縄, 2015. 2. 26-27
- 猪又麻子 健診センター健診運営部健康相談室：メンタルヘルスチェックを職場環境改善に活かすために－ストレスチェック義務化を見越して－, 第 49 回予防医学技術研究会議, 沖縄, 2015. 2. 26-27
- 山浦泰子 健診センター医局：検診に生かす心エコー図検査, 第 26 回日本心エコー図学会学術集会, 北九州, 2015. 3. 26-28

(2) 健診・検査で得られたデータの活用

①事業年報の配付

年度単位の健診・検査データの活用を推進するため、平成 25 年度事業年報の編集において、集計・統計やその表示について調査研究に引用しやすいよう修正を加えた。また、健康管理、健康対策の基礎資料等として地方公共団体・保健医療機関等広く配布し情報提供した。

②健診・検査データ等の活用

(ア) 統計解析や調査研究結果に基づいた判定や保健指導の実施

検査データの積み上げにとどまらず、問診データ等の諸条件に基づく複合的な統計処理を行い、生活

習慣、既往歴等、更には性格的要素等と健診・検査データの関連性を見出し、実際のデータから得られた知見等を保健指導・栄養指導に有効活用した。

- ・行動変容をめざした特定保健指導－性格タイプ別の教材を取り入れた試み－
- ・メンタルヘルスチェックを職場環境改善にいかすために－ストレスチェック義務化を見越して－

(イ) 統計解析や研究により取得した情報の提供

健診・検査データの統計処理から得られた知見や健診で用いられる様々な検査の意義等の情報等を講演会や学会等での発表や広報誌に掲載する等、健康管理に役立つ情報を積極的に発信した。

- ・シンポジウム『検査でわかる腎臓病－健診結果の見方・生かし方－』を開催し、「尿検査」「血液検査」「腹部超音波検査」についてそれらの検査の方法や意義等、実際に担当する技術者からわかりやすく解説をするなど、腎臓疾患予防・早期発見のための健康診断の重要性を発信した。
- ・シンポジウム『消化器系の健康診断の受け方、検査結果の見方・生かし方』を開催し、「胃のレントゲン検査」「上部消化管内視鏡検査」「腹部超音波検査」をテーマにそれぞれの専門技術者が解説し、様々な質疑を含め、検査で何がわかるのか、検査を受ける際の注意点、結果票の見方などについての情報を発信した。

4. 健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業

(1) 健康づくり事業

①健康学習

疾病予防や健康づくりに関する知識の普及啓発を目的に公開講座を開催した。「土曜健康科学セミナー」では疾病予防に関する知識や情報に加えて最新の医療情報や介護予防に結びつく内容を、また、「健康づくりセミナー」では食育や健康診断の検査項目に関するテーマを取り上げ、講演会だけでなくシンポジウム等受講者参加型セミナーも開催し、受講者にわかりやすく興味深いと好評を得た。

②教室事業

開催の時間帯や曜日、回数等に変化をもたせ、年代や性別、個人の体力や知識レベルにあわせて選べるように工夫した。特定の疾病の予防・改善を目指した「骨粗しょう症予防運動教室」「尿もれ予防体操教室」「膝痛なくなれ運動教室」をトータルコースとして引き続き実施した他、「身体のゆがみリセット」や「認知症予防実践教室」など新たな教室も開催した。

③ライフキッチンコース

生活習慣病の予防と改善について料理と講話で学ぶ教室「いきいき食生活」等を引き続き月例で開催した。新たに、「慢性腎臓病予防教室」を行い受診勧奨や予防啓発を行った。

(2) 健康づくり支援事業

勤労者や各種団体等を対象に、健康づくりプログラムを提案するとともに、管理栄養士・健康運動指導

士等の専門スタッフを派遣し、健康づくりを支援した。また、健康ライフプラザのライフキッチン等の施設を活用し、実践に重点を置いたセミナーも行った。

健康ライフプラザに設置したセルフチェックコーナーでは、簡易に使える健康機器を来所者がいつでも使用できるように配置し、自主的な健康づくりの場として提供した。さらにこれらの機器を用いて、神戸市等がおこなうイベントに出向き、健康づくり活動の普及啓発を目的にした健康チェックを行い利用者に好評を得た。

《建物・設備機器等の更新・整備》

(1) 御影健診センター改修工事及び旧2・3号館解体撤去工事

旧3号館機能(検査部門)の移転先及び一部健診の実施会場として整備するために、平成26年1月から進めてきた御影健診センター改修工事は、平成26年6月に工事が完了した。

また、旧2・3号館については解体撤去し、平成26年12月に借地の返還を行った。

(2) 設備機器等の更新・整備

業務の改善を目的として、設備機器等の整備を行った。

- ①胃部デジタルX線検診車
- ②胸部デジタルX線検診車
- ③パソコンOS更新
- ④セキュリティ関連システム
- ⑤デジタルX線撮影用画像サーバー
- ⑥上部消化管汎用ビデオスコープ(2台)
- ⑦内視鏡ビデオシステム
- ⑧1号館ネットワーク設備
- ⑨血糖分析装置
- ⑩免疫測定装置

《寄附金受納》

○寄附者

宮本 武 様

事業実績明細

(疾病予防のための健康診断及び検査事業・健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業)

事業名	種別	内 容	件 数 等	
			当 年 度	前 年 度
疾病予防のための健康診断 及び検査事業	地域保健	特定健康診査等	56,987人	54,042人
		がん検診(施設実施分含む)	134,525人	130,636人
		結核検診	53,980人	53,131人
		エイズ検診	2,433人	2,448人
	学校保健	腎臓・糖尿病検診	514,492人	515,889人
		寄生虫検査	167,244人	178,739人
		心臓検診	74,481人	75,706人
		脊柱検診	31,581人	31,482人
		結核検診	85,058人	84,764人
	産業保健	一般健診	166,637人	176,483人
		特殊検診	15,314人	16,561人
		協会けんぽ生活習慣病予防健診	22,797人	21,786人
		がん検診(施設実施分含む)	68,273人	72,725人
		労災二次健診	113人	85人
	総合健診	総合健診	6,657人	7,488人
	保健指導	特定保健指導等	478人	367人
	細胞診	子宮がん細胞診	53,718件	49,635件
		喀痰細胞診	8,960件	8,814件
	腸内細菌検査	腸内細菌検査	87,847件	100,965件
	作業環境測定	作業環境測定	1,160件	1,118件
食品検査等	食品検査	10,606件	9,787件	
水質検査	水質検査	2,223件	3,530件	
水道施設検査	簡易専用水道検査等	4,489件	4,682件	
健康支援のための健康増進 事業及び健康教育事業	健康づくり事業	健康学習・健康づくり教室	7,321人	10,817人
	健康づくり支援事業	講師派遣等	100回	97回